

# 被爆ピアノ コンサート in 阿南



太平洋戦争の終戦前、広島市への原子爆弾の投下から奇跡的に生き残った被爆ピアノ、通称「ミサコのピアノ」を使ったコンサートが見能林、富岡、津乃峰小学校と市役所で行われました。見能林小学校では、ピアノリストの本貴子さん（徳島市）がベートーヴェンの「月光」を、1〜6年生の児童32人が童謡「かえるのうた」や「おひさまキラキラ」、練習曲「清い流れ」などの曲を演奏。市役所では、ピアノリストの松村周作さん（牟岐町）がベートーヴェンの「エリーゼのために」や菅野よう子の「花は咲く」ほか5曲、阿南中3年の高田真佑さんがショパンの「ノクターン第20番 嬰ハ短調（遺作）」をそれぞれ演奏すると、観客は目を閉じるなどしてじっくりとピアノの音色に聞き入っていました。

「ミサコのピアノ」は、1945年8月6日、広島市に原子爆弾が投下さ

れた際、当時の所有者だったミサコさんの自宅、爆心地から1・8キロの場所で被爆しました。ピアノを託された調律師の矢川光則さん（63歳・広島市）は、10年以上前からピアノとともに全国各地を回り、被爆ピアノコンサートを開催しています。「音が出るよう一部を修復した以外、ピアノは全て被爆当時のまま。被爆ピアノを間近で見ると、音色を聞くことで、平和の尊さや戦争の恐ろしさについて考えるきっかけにしてほしいです」と活動にかける思いを語ってくれました。

コンサート前に、児童の皆さんは千羽鶴を折り、矢川さんに贈りました。折り紙は、広島平和記念館に奉納されていた千羽鶴を再利用した紙が使われたほか、費用は市民の寄付でまかなわれ、一羽一羽に平和へのメッセージが込められました。

被爆ピアノコンサート実行委員会の美馬育子さん（73歳・津乃峰町）は、「被爆した当時、ミサコさんは17歳で、ピアノリストを夢見る女の子でした。しかしその夢は原子爆弾によって絶たれてしまいます。原子爆弾が人命だけでなく彼女らの将来の夢や希望までも奪ったという事実を、コンサートにご参加いただいた皆さんには肌で感じてもらえたと思います」と話していました。

矢川さんの手によって息を吹き返した被爆ピアノ。たくさん小さな傷が付いた側面が、少し黄ばんだ鍵盤が、その美しい音色が、阿南市民にも平和の大切さを伝えてくれました。



亡くなった方の無念さや悲しみが伝わってきました。戦争や原子爆弾についてもっと知るため、原爆ドームにも行ってみたいです。

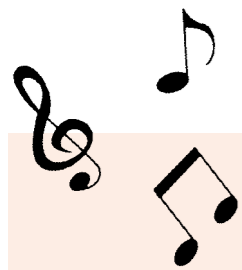
触った瞬間、ミサコさんの思いに触れて、やさしい曲が弾ける気がしました。もっとたくさんの方にピアノの音色を聞いてほしいです。

全校生徒の前で演奏するのは緊張しました。普通のピアノより手触りがざらざらしていて、とても古い木でできているんだあとと驚きました。

被爆ピアノなのにちゃんと音が出てすごいなと思います。今まで平和について考える機会があまりなかったので、勉強になりました。

間近で見るとピアノの鍵盤が黄色くて、本当に原子爆弾が落ちた場所にあったものなんだということを実感しました。

最初は被爆ピアノと聞いてなんとなく怖いイメージを持っていましたが、弾いてみるとすごく柔らかくてきれいな音でした。



♪ 6年生♪ 清田 絢衣さん



♪ 5年生♪ 中島 斗亜さん



♪ 4年生♪ 森 将貴さん



♪ 3年生♪ 長尾 柊哉さん



♪ 2年生♪ 滝沢 羽菜さん



♪ 1年生♪ 谷 在温さん

被爆ピアノを演奏した  
見能林小児童の  
皆さんの声

